

□医療・福祉専門科目

科目名	ソーシャルワーク論	2 単位
担当者	田中 千枝子	
開講形態	対面形式	
テーマ	ソーシャルワークを理論や方法論として学び、事例研究やロールプレイやカンファレンス体験などを通じて理解する	
科目のねらい	<キーワード>①ソーシャルワーク ②実践理論 ③社会福祉方法論 ④ミクロ・メゾ・マクロ実践 ⑤専門性 <内容の要約>ソーシャルワーク実践の基盤となる考え方や方法を示すソーシャルワーク実践理論やアプローチに関する基本的知識や支援観や視点を身につけることによって、特にミクロからメゾレベルのソーシャルワークの専門性の確認をする。また実践事例を分析し、グループ作業によりコミュニケーションをはかる体験をすることで、価値に基づく知識・技術を検証し、さらにそれを専門職のコンピテンスとして身に着けるために集団学習およびレポート作成によるセルフワークによる学習を行う。 方法としては、実際の事例に対して様々な教育的手法により実践理論・モデル・アプローチを適用し、参加型授業によって個人・集団・地域等一定の視点からの事例の展開を観察し理解し分析し、解釈および評価するプロセスを追い、事例検討の流れを体験する。 <学習目標>人の生活/人生に着目し、社会的枠組みにおいて福祉的課題を設定し、その科学的視点を身に着けることによって、ソーシャルワークの実践方法を理解し、組織・地域・制度に対して、働きかけることができる。ソーシャルワークの理論や展開過程を問題解決に応用する能力として身に着け、多職種に対するコミュニケーションやプレゼンテーション等のマネジメントスキルの研鑽に役立てることを目的とする。	
授業の進め方	第 1 回 オリエンテーション 授業契約 第 2 回 SWの実践理論概論講義 第 3 回 援助観・価値観の理論的変遷 事例による検討 第 4 回 統合理論の概観 事例による検討 第 5 回 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル ロールプレイ 第 6 回 エコシステム論と時間：空間的把握 エコマップ・タイムライン作成 G作業 第 7 回 ピンカス・ミナハンの4つのシステム理論、地域における多職種他機関連携を意識したエコマップ・タイムライン作成 G作業 第 8 回 GWに関する基礎理論概観 チームアプローチ協働の型 ロールプレイ 第 9 回 グループ力動論、司会の技術、事例検討、ロールプレイ KJ法によるGW 第10回 課題に対するプレゼンテーション技術 ディスカッションとリーダーシップ 第11回 地域福祉の技術と評価 調査研究 第12回 エンパワメント評価法 ワークショップのロールプレイ 第13回 SWリサーチ 介入計画の作成 第14回 ミクロ・メゾ・マクロに展開するSWとマネジメント レポート 第15回 グループ発表、まとめ、レポート作成	
事前学習の内容・学習上の注意	○前もって社会福祉学の基礎的な理論や概念の知識（教科書程度）を確認しておくこと ○ディスカッションやロールプレイなどG作業や演習形式を多用するので、積極的に参加すること ○専修や専攻を超えて様々な立場の学生が集まるので、多くの仲間を作るようにすること ○集中講義3日間 午前と午後計6回の授業内レポートを課し、理解の内容を確認する	
本科目の関連科目	医療・福祉マネジメント研究科「専門演習Ⅰ・Ⅱ」の考え方や論文作成の枠組みや問題提起に寄与する。なお本科目は「認定社会福祉士」の資格付与対象科目として認定されている。	
テキスト	木村容子・小原真知子編 「ソーシャルワーク論Ⅱー理論と方法ー」法律文化社 2023	
参考文献	渡部律子『福祉専門職のための統合的多面的アセスメント』ミネルヴァ 2020 ブトユリム・Z 『ソーシャルワークとは何か』川島書店 1986 その他資料配布	
成績評価方法と基準	集中授業 3 日間で、午前・午後の 2 回×3＝6 回 レポート提出 60% ディスカッションやロールプレイへの参加度 40% 総合評価により 60 点以上を合格とする。	

□医療・福祉専門科目

科目名	地域福祉論	2 単位
担当者	川島ゆり子	
開講形態	ハイブリッド形式	
テーマ	地域福祉の今日的な課題を理解し、くらしを支える支援を学ぶ	
科目のねらい	<キーワード> コミュニティワーク、コミュニティソーシャルワーク、社会参加 <内容の要約> 住み慣れた地域で誰もが安心して暮らし続けることを支えるためには、人の暮らしづらさに寄り添い地域生活課題の解決をめざしていく個別支援と、人の暮らしの基盤となる地域づくりを連動させていく必要がある。また地域福祉を推進する実践者は、これらの地域を基盤とするソーシャルワークの理解だけではなく、包括的支援体制への理解も深めていくことが求められている。地域福祉における今日的な課題について検討し、その課題についての先行研究を批判的に検討していくプロセスを通じて、受講者自身の地域に対する課題意識と研究の手法への理解を高めることをめざす。 <学習目標> ①地域福祉の理論について理解し、批判的に考察することができる ②地域における今日的な課題について理解し、自分自身の研究にひきつけて検討することができる	
授業の進め方	第1回 オリエンテーション 第2回 地域福祉の射程 第3回 岡村重夫「地域福祉論」 第4回 岡村重夫地域福祉論への批判的考察 第5回 社会的排除・社会的孤立 第6回 社会的孤立に関する先行研究の検討 第7回 住民主体の地域福祉活動の現状と課題 第8回 住民主体の地域福祉活動に関する先行研究の検討 第9回 中山間地域におけるくらしの現状と課題 第10回 中山間地域における地域福祉の先行研究の検討 第11回 災害と地域福祉 地域の再生と持続可能性とは 第12回 災害におけるソーシャルワークの先行研究の検討 第13回 包括的支援体制の現状と課題 第14回 包括的支援体制の先行研究の検討 第15回 地域福祉計画の意義（実例を交えた策定過程）	
事前学習の内容・学習上の注意	最終回をのぞく14回は2講連続で同一テーマを扱う。6限目に理論的な解説を行い7限目は、そのテーマに関する論文を1-2本提示し、批判的に考察しながらそのテーマの内容を実証的に研究するための手法についても併せて学習する。受講生は各回を受講する前に、オリエンテーションで提示される各回の資料論文を事前に読んだうえで、講義に出席することが求められる。また、1回以上資料論文のレビューをレジュメにまとめクラス内での発表を求める。その受講生のレビューにもとづき、クラス内でディスカッションを展開する。	
本科目の関連科目	私の研究テーマと方法 プログラム評価論	
テキスト	テキストは使用せず各回、レジュメを配布する	
参考文献	文献 PDF を配布する	
成績評価方法と基準	最終レポート（60%）、講義受講姿勢・出席の状況（20%）レジュメによる文献レビュー発表（20%）により評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。	